

日本共産党

くろはま ニュース

NO.4

今年度中に元荒川の土砂堆積物を取り除く

水害対策として、住民と共産党市議団の要望で実現

元荒川周辺では、台風や集中豪雨で市街地の「内水」による水害が多発しています。災害時には元荒川が増水して、市街地に逆流するのを水門で止め、「内水」を元荒川へポンプで排水しています。しかし、ポンプの能力や元荒川の水位も高いので限界があります。

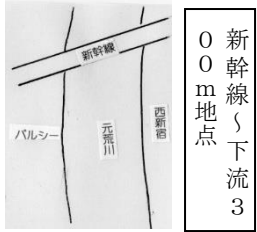
日本共産党市議団は、周辺住民をはじめ市とも協力して、日本共産党埼玉県議団を通じて、元荒川・綾瀬川の浚渫（しゅんせつ・川底さらいをし土砂を取除く）を国・県に働きかけてきました。その結果、今年度中に元荒川3か所と綾瀬川1か所の浚渫工事をする

ことが実現しました。これにより、元荒川の水位を多少抑えることが見込めます。最近の集中豪雨は凄いので絶対安心とまでは言えませんが、大きな前進です。

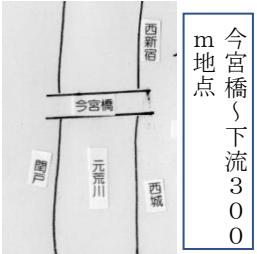


椿山2丁目の河川敷より→方向に撮影した新今宮橋～新荒川橋間の浚渫工事の様子

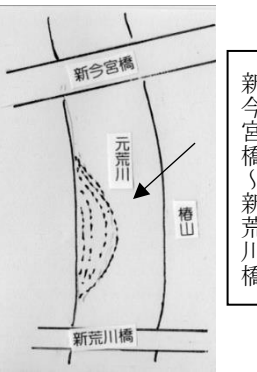
元荒川の浚渫工事箇所



新幹線↓下流300m地点



今宮橋↓下流300m地点



新今宮橋↓新荒川橋

今、政府のコロナ対策に欠けているものは何か

① 感染源を減らす施策を

— 全額国庫費負担で

PCR検査の拡充を—

積極的に感染者を発見するためにPCR検査の基準を明確にして、国の費用負担で広く実施することです。台湾などでは、感染地域での幅広いPCR検査で感染拡大を抑え込んでいます。

新型コロナウイルスの特徴は、「無症状」の感染者が多く存在することです。医療機関や老人福祉施設等では、国の負担で「社会的PCR検査」を実施し、感染者を積極的に発見して保護することが必要です。一部の自治体で実施され、効果が生れていますが、費用の半額が自治体負担のため全国的には広がっていません。

② 医療崩壊を防ぐ特別の支援

すでに感染者の保護収容が困難な状況が生まれています。病床の確保と併せて人材の確保が切迫しています。しかし、病院の経営は7割ほどが赤字

に陥っています。医療機関への、国による特別の財政支援体制が求められています。

皆さんと力を合わせて実現しました

江ヶ崎地区の住民より「道路が夜真っ暗で、危ないから街灯を付けてほしい」との要望が寄せられました。早速市役所自治振興課に要望を伝えたら、明るいLEDの街灯が設置され、住民からは感謝の言葉が寄せられました。



上は日中の同じ場所（加工処理済）。⇒が街灯設置位置。



電柱にLEDライトを設置（上の⇒部）したことで、道路が明るくなった（下の⇒部）。